



「大建築 だいかね 農家を直す 金田克彦さん」

金田さんと息子の太一君



Like 0 [✕ ポスト](#)

施主もつくり手も幸せになれる、そんな家づくりができた時は、何より嬉しいです。

京都府綾部市に工務店「大」（だいかね）建築を主宰する大工の金田克彦さんを訪ねた現場レポートをお届けします。

みんなが幸せになれる家

「古くなってたけど、おじいちゃんが建てた家だから潰す気になれなくて…」金田さんに改修を頼んだ農家の西山さんは、生まれた時からこの家に住む。「ここまでよくなる」とは、想像できなかった。すべてに満足です。この家のご主人が亡くなって、一年が経つ。取材に同行した金田さんはまず、ご主人の位牌に手を合わせた。「少しの間でしたけど、新しくなったこの家にいられて、ほんとに嬉しそうでしたよ」と奥さん。



座敷から玄関を見る。2階にあがる急な階段は、西山さんのおじいさんがつくったものを残した。

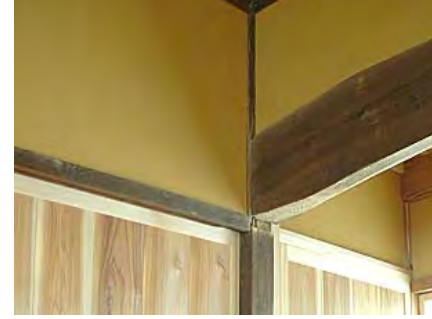
どんな家づくりを心がけているの？と金田さんに訊くと「みんなが幸せになれること」という答が返って来た。「この家で一番気に入っているところは？」と訊くと、西山さんも息子さんも「全部！」と笑う。この家を建てたおじいさん、ずっと住んで来た西山さん、改築したこの家が亡くなる前の束の間の終の住処となったご主人、そしてお父さんの跡を継いで農業をする息子さん。今ここにいても、すでに世を去った人も、人の一生よりも長い寿命をもつこの木の家に関わるすべての人と魂が、よるこんでいる。それが伝わってくる家だ。



西山さんが子どもだった頃の落書きも、そのまま。

「家は大工だけでつくるもんやない」

金田さんがいつも組む綾部の左官屋さんは、壁土をつくるつなぎに糊を加えることなく、水と土だけでこねる「水ごね」の仕事をする腕のいい職人。部屋ごとに微妙に表情を変えてある。「浄化槽を掘ったところからでた赤土を見て、左官屋さんが『これ、使える！』と言ってくれてね」聚落に似た淡路の土と混ぜ合わせると深い山吹色になり、寝室に落ち着いた雰囲気を醸し出した。



糊を加えた壁土だと10年位で糊が劣化し、ぼろぼろと崩れ始めるが「水ごね」の壁土にはその心配がない。「水ごね」は技術的にむずかしく、手がける職人が少ない。

障子には、綾部の伝統工芸である「黒谷和紙」を漉く若い職人ハタノワタルさんの和紙を使った。光がやわらかく散乱し、落ち着いた雰囲気を醸し出す。玄関ホールと2階の屋根裏の部屋の壁も、ハタノさんの和紙を貼って、仕上げた。色は部屋の主となる息子さんの好みに染めて漉いたものだ。



玄関上の天井の黒谷和紙。一枚一枚の陰影がちがっていて、美しい。

つくる人とつながっているからこそ

「自然素材を使っている」というだけでは言い足りない。金田さんの家づくりの特徴は、金田さんが自然素材を「つくる」人とつながっていることにある。「素材生産者とつながっていると、その家の暮らしぶりに合わせて『どうしようか』という所からいっしょに考えられるので、表現にうんと自由度が出るんです。『こんな感じにしたいんやけど』ともちかけると『じゃあ、こうしようか』って、どんどん工夫が生まれる」



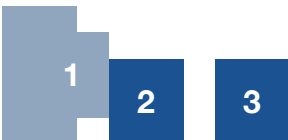
黒谷和紙は、こうぞを煮るところから手作り。絶妙な割付けの建具で、紙の質感が生きる。

ひとつひとつの現場が、新たな可能性を探る場になり、金田さんたちチームのポキャブラリーを豊かにしていく。家づくりは住まい手だけでなく、金田さんとまわりのつくり手にとっても、技術を発揮できる「幸せの場」なのだ。「大工は木で仕事をするかざり、構造を含めきっちり木を活かした仕事をするのが根本。その上で、まわりの職方と知恵を出し合いながら、互いの仕事の可能性を引き出す。それをまとめるのも大工やと思っています」



建具で仕切りの強さを変えている。玄関とのつながりの強さは1)左の座敷、2)正面の台所(締めれば台所からだけ見える)、3)右の番書(締切)という順。こうした工夫には、京都の経験が生きる。

Like 0 [✕ ポスト](#)



農家の跡継ぎとなった息子さんと西山さん。



関連する記事はこちら

- NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！
- 大工・川村克己さん(川村工務店)：石場立ての家
- 五月組：あのサツキとメイの家を建てる
- 伊勢神宮運宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
- 工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

- 2019年6月15日 やさしくて強い、理想の家を求めて：アイ設計研究室 大前泰秀さん
- 2019年5月15日 磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所 西岡健一さん
- 2019年4月20日 大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん
- 2019年4月10日 本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽 高橋一浩さん
- 2019年1月5日 新春特集 2018年のベストショット集
- 2018年12月29日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声&今後の課題編
- 2018年12月17日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編
- 2018年12月14日 板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編
- 2018年9月4日 番匠 廻持工務店 副棟梁・廻持大輔さん
- 2018年8月15日 鶴岡総会予告 その1 散るより、生き延びよう！

人気のある記事

- 伊勢神宮運宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 18件のビュー
- 家のお風呂 こうやって作る、こうやって保つ 15件のビュー
- 設計士・川端興さん(川端建築計画)：小さな石場建ての家 11件のビュー
- 工務店・西條正幸さん(バイオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
- 大工・高橋俊和さん(都幾川木建)：初原の営みに魅せられて 8件のビュー
- 工務店・小田貴之さん(オダ工務店)：木の家づくりのプロデューサー 8件のビュー
- 大場江美さん(サステイナブルライフ森の家)、日影良孝さん(日影良孝建築アトリエ)：手のひらに太陽の家 7件のビュー
- 大工・綾部孝司さん(綾部工務店)：原点回帰 7件のビュー
- きらくなてものやチーム：家づくりを自分の手に！ 7件のビュー
- 大工・村上幸成さん(村上建築工房)：チームで大きな木の仕事をしたい！ 7件のビュー

この記事のタグ

- 大工以外の職人たち
- 日本文化と木の家
- 現場レポート

同じタグがついた別の記事

- 2003年3月25日 建具という装置
- 2009年2月26日 漆職人・小林広幸さん(春野屋漆器工房)：木の家づくりにも関わる漆塗り職人を訪ねて
- 2014年8月8日 設計士・林美樹さん(ストゥディオ・プラナ)：職人がつくる木と土壁の家
- 2015年9月16日 里山循環大工：池山琢馬(一峯建築設計)
- 2010年6月30日 土壁の魅力



地域別つくり手リスト

北海道・東北	関東(東京以外)	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東(東京)	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				愛媛県	
					高知県	

京町家を直す

だいかね
天建築 金田克彦さん



1 2 3

Like 0 0 投稿

決まりごとの多い京都の仕事は緊張しますが、勉強することが多く、やりがいがあります。

つくった人の手の跡を探りながら

「暮らしの文化研究 創芸の会」を主宰し、京都と札幌を行き来しながら衣・食・住・道具・技術の研究をする河村通夫さんは、手放されることになった由緒ある古い町家を買取った。建てられた当時のままに直し、なるべくその形で暮らすことを通して、京の暮らし文化を体得することが、河村さんのねらいだ。金田さんに改修工事の白羽の矢が立った。



左ノミセニからあがったミセ (表通りに面している) からガイドコ、オクを見る。

「数寄屋専門の工務店は京都にいくらもあるけど、金ちゃんに頼んでよかったと思ってるよ」建築にも造詣の深い河村さんが「こうしたい」と簡単な図面に描き、言葉で表現することに、金田さんは手仕事で応えていった。



「暮らしの文化研究 創芸の会」を主宰する河村通夫さん。北海道のSTVラジオで暮らしの文化をテーマとした人気ラジオ番組「桃栗サンデー」のパーソナリティでもある。

「どうして、こうなっているんだろう、元はどうやってたんだろう、ってきちーと考えるよね、彼は」蔵と庭との結界を築く垣根につく「梅見門」の柱の足元が腐っていた。元の柱をできる限り残し、木を継いでおさめ



梅見門の根継ぎの様子。

た。「一本まるまる取り替えた方が断然、楽でしょう？でも、金ちゃんはそうはしないんだな。古いものを残して、根継ぎしてくれる。その心意気が、嬉しい」

もとあったよりも、よいものをめざして

門にかかる屋根も、茶道の宗家をはじめ数寄屋関係の事例を参考にしながら、この家の雰囲気合ったものを検討し、工夫した。「いいものをつくらうとすれば、材料選びにも気を抜けない。選ぶ目をもつには、勉強もし、感覚も磨いていない」と河村さんは言う。



梅見門の軒裏。材料選びには、とても気を遣った。

金田さんが大工修業に入った京都の工務店では、数寄屋から一般住宅まで経験した。修業中には木の家ネットの多くの若き棟梁たちが学んだ「大工塾」に通った。自分たちで作る



試験体を実際に壊す実験は、構造を考えるのに役立った。京大防災研の鈴木恭之先生が手がけた京町家の実物大振動台実験から学ぶも

の多い。ほかの職方の話が聞ける京町家の勉強会には今も通い続ける。金田さんの中に蓄積が、仕事にフルに役立っている。

家に手を入れる主の楽しみ

「で、金ちゃん、いつ手があく？」今度はここを直したい、次にはあそこ、河村さんの改修計画に終わりはない。長い年月、その家の主が交替しても住み継がれる家は何度も改修を経て存在するが、改修は必ずしも不具合や不都合を解消するためのことだけではないかもしれない。



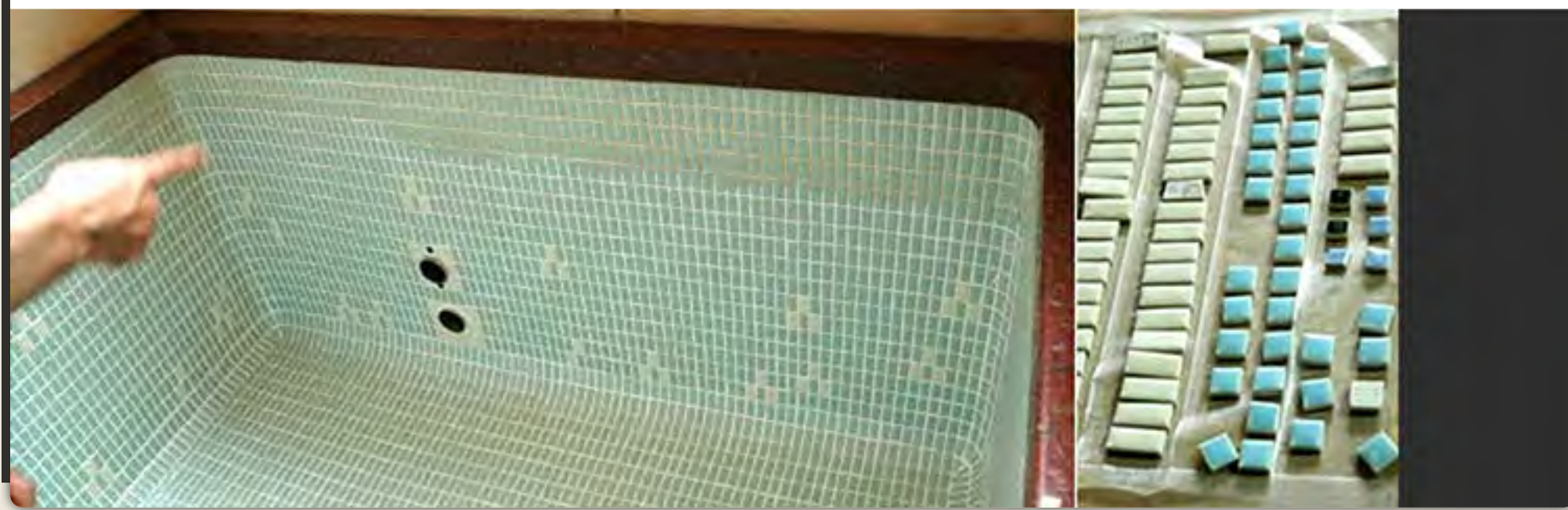
細かいパーツにまで、そぐうものをこだわって選ぶ。びったりなものが見つかったら、うれしい。河村さんが古道具屋で見つけて来た真鍮の引手。

主人のめざす洗練を、職人が手仕事で返す。その心地よい緊張感の中に施主にとっても「普請道楽」とでもいうべき至上の楽しみがあったに違いない。名工のつくる建物には、必ず目の高い施主がいて、両者の共同作業の結果としてその家がある。「金田さん、いい仕事できて、いいね」と言うと、「お蔭さんで、出会いに恵まれて」という言葉が返って来た。

Like 0 0 投稿

1 2 3

職人に「手がかりすぎるから無理」と言われ、河村さんが自分で貼った風呂場のタイル。タイルも機会をとらえては集め、いつでも使えるように種類別に保管してある。



関連する記事はこちら



NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！



大工・川村克己さん(川村工務店)：石場立ての家



五月組：あのサツキとメイの家を建てる



伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！



工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして

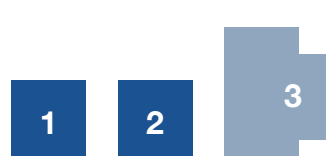
北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東（東京）	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				愛媛県	
					高知県	

人とのつながりの中で

大建築 金田克彦さん



志賀郷のまちなみを裏の田んぼから見る。



Like 0 ポスト

百姓も、大工も、自分の中ではつながっています。

「自分の現場」を求めて

金田さんの大工としてのスタートは、決して早くはない。高校時代、身近な森が切られたショックから環境にめざめ信州大学森林学科に進学。在学中から、でバイオガスプラントをつくるNGO活動に関わり、国内外13カ国まわった。一年休学して北タイで地域の自立支援の手助けをするNGOにいたこともある。やりがいのあることだったがどこかで「俺らは俺らの国でがんばるから、おまえもおまえの国でがんばれ」と背中を後押しされている気がした。「自分の現場」をもちたかった。



金田さんの家。志賀郷は茅葺きにトタンを被せた屋根の家が多い。

帰国後、埼玉県小川町の農家で一年間有機農業を学んだ。農業はやりがいもあり、楽しかった。が、それが「自分をもっとも活かす道なのか」と思うと、疑問が残った。大工修業に入ったのは、その後のこと。世界に向いていた目が日本に、地域に、そして自分が心から好きだと思える現場に収束していった。



博子さんとタイに新婚旅行に行った時のスナップ。昔、NGOで滞在した時に世話になった友人達を訪ねた。

人とのつながりの中で

場とは、大工の現場だけを指すのではない。農、食、子育てなどを含めた、人びとの暮らし全体の中での「暮らしの家づくり」が自分の役、と金田さんは思っている。米を8反分と自家製の大豆と麹からつくる醤油や味噌を、食べる人に直接届けることを生業とする博子さんと知合い、綾部に移り住んだ。米の収穫や茶摘みなど、大工の合間に奥さんの農作業を手伝うこともある。



黒谷和紙の職人であり、アーティストでもある八タノワタルさん。黒谷和紙に魅せられ、綾部に移住してきた。ブログはこちら

茅葺きにトタンを被せた、軒の低い家が並ぶ、綾部でも古い街道筋「志賀郷」に住む。家の裏は隣の家の裏とそのままつながっている。夕方、近所の友人家族が集まった。工芸や百姓をするために移り住んで来た人たちだ。その輪の中に、黒谷和紙の八タノワタルさんの姿もあった。平家の落人の家系が伝えたという、コウゾ蒸しから紙漉きまで、すべての工程を手作業で行う。絵描きでもあり、きれいな色を染めあげる。「和紙を建築に使ってもらえて嬉しい」とよろこぶ。建築現場にも足を運び、壁貼りの工程をともにする。金田さんにとっては、現場とは、人とのつながりのことだ。



金田さんの改修で、農家民宿「野良」としてよみがえった古い家。人が集まりやすい空間になった。

「地元の大工」を生きる

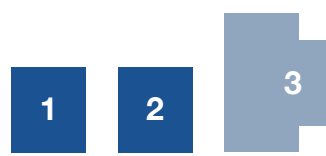
仕事は施工した家を見た人から頼まれることが多い。近所の仕事の割合が増えたのは身近な人の輪の中で生きていてこそだ。「地元の大工としてこの現場を生きることが、世界を幸せにすることにつながる、そう思える仕事をしよう。それでいいんだ、と今では思えます」世界に向いていた目が、ぐるっとまわって自分の足元に戻って来た。ひとつひとつの仕事を通して、その家に住む家族を、家づくりに関わる職人を幸せにする。そんな仕事をする金田さん自身が、とても幸せそうだ。



大阪から上林に移り住んだ齊藤典加さん。野草料理の研究者の若杉友子さんの娘であり、三児の母でもある。自然農法で15アールの田んぼを手がける。

「野良」では玄米菜食、身土不二の「マクロビオティック」の食事を推奨していて、食材も売っている。料理教室も時々開催している。

Like 0 ポスト



齊藤 典加さん（旧姓：若杉 典加さん）が主宰する綾部市上林の情報サイト「きらり上林」はこちら。



関連する記事はこちら



NPO関善賑わい屋敷・曳家工事：この家が動く！



大工・川村克己さん(川村工務店)：石場立ての家



五月組：あのサツキとメイの家を建てる



伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！



工務店・山本兵一さん(大兵工務店)：蔵の街の再生をめざして

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道	栃木県	新潟県	岐阜県	滋賀県	鳥取県	福岡県
青森県	群馬県	富山県	静岡県	京都府	岡山県	佐賀県
岩手県	埼玉県	石川県	愛知県	大阪府	広島県	長崎県
宮城県	千葉県	福井県	三重県	兵庫県	山口県	熊本県
秋田県	神奈川県	山梨県		奈良県	徳島県	大分県
山形県	関東（東京）	長野県		和歌山県	香川県	
	東京都				愛媛県	
					高知県	